
あるいは、歪な愛情

霧生絢香

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あるいは、歪な愛情

【Nコード】

N0659D

【作者名】

霧生絢香

【あらすじ】

詩のようでもあり、短編でもあり。色々な要素を併せ持った小説です。自らを“愚民”と称する『僕』と、『僕』が愛した『女神様』。サド侯爵が書いたソドム百二十日あるいは淫蕩学校などの要素も含んでいるかと。ただ、アダルト要素はないので十八歳未満の方も閲覧できます。基本、危険思想がち。

呆れるほどに愛してたんだよ。

「バカみたい」

君の口唇がその言葉を紡ぎ、その矛先は僕に向いていることに気づき、僕は歪な笑みを浮かべる。

「本当、バカね」

そう言われて、とことん侮辱されても僕は喜びを感じていた。

マゾヒストな訳ではないけど、そう君に言われることがとてつもなく嬉しかったんだ。

僕はとんだバカ野郎だからさ。

今世紀最大の過ちを犯してしまった。

「君を愛してしまっただですよ」

ああ、本当心底バカだ。

愚民が神聖な女神を愛すなんて最高に甘美な禁忌。

いつそのままこの汚らわしい身体ごとあなたに捧げたくなる。

旧約聖書のアダムは何を考え禁断の果実を食べたのだろうか。

「泣けてくるんじゃないの？」

頬に流れ落ちた透明の雫は僕ばかりではなく女神までもを濡らし、汚してゆく。

「バカみたい」

扉の鍵を手渡せば、あとはもう堕ちていく。

歪んだ愛情、破綻した物語。

今すぐ飛び立って、そのまま闇へ行ってみたい。

「狂ってる」

何もかも。

愚かな民が苦悶する姿を尻目に女神様は流れる旋律と共に豊かなステップを踏む。

まるでソドムの市。

草葉の陰でサディスト公爵がさぞ笑っているだろう。

スキャンダラスで甘い罠。

まんまと嵌った僕はいつまでこの無限に続く苦しみを味わうのか。

乾いた銃声と澄んだ歌声。

耳に届くころにはすでに息絶えて。

ああ、君は本当に綺麗な女神だ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0659d/>

あるいは、歪な愛情

2010年10月14日22時03分発行